

道徳科の授業の質的向上を目指した道徳教育推進教師の取組 —指導体制の整備と教員のニーズに応じた提案を通して—

【教科・領域】 特別の教科 道徳 令和元年度 前橋特別研修研究員 前橋市立富士見中学校 関 洋輔

【勤務校の実態】

- ・道徳科に関する校内研修を推進する「道徳教育プロジェクト部会」を設置している。
- ・学年の教員全員参加型のローテーション道徳を実施している。
- ・道徳科の授業において、教科書の活用や指導方法、評価について不安や困り感を感じている教師が多い。

既存の学校組織をうまく活用し、機能的に情報の伝達や共有ができないか？

ローテーション道徳のよさを生かした指導を行いたい！

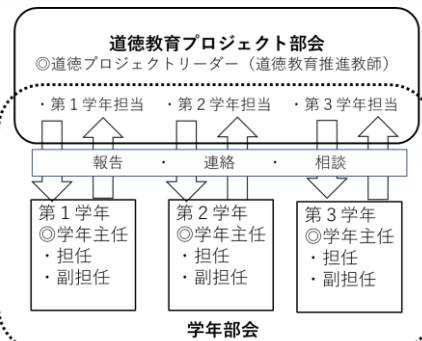
教員のニーズを把握して、先生方が必要としている情報を提案していきたい！



道徳教育推進教師として、道徳科の指導体制の整備と教員のニーズに応じた提案を通して、道徳科の授業の質的向上を図ることが必要だと考えました。

【手立て1】 指導体制の整備

① 道徳教育プロジェクト部会と学年部会のつながりを強化



道徳教育プロジェクト部会で検討した内容を各学年の道徳担当が学年部会にて伝達する。再度、道徳教育プロジェクト部会に持ち帰り、共有・検討する。

② ローテーション道徳の見直しと改善

2種類のローテーションを提案するとともに、それぞれのローテーションの特性を紹介する。

《ローテーションA》 《ローテーションB》

<学年すべての教師が同じ教材で各クラスをまわる>

<担任が基本となりながら、副担任が入る>

	1組	2組	3組
○月○日	A教諭 教材①	B教諭 教材②	C教諭 教材③
○月○日	D教諭 教材④	A教諭 教材①	B教諭 教材②
○月○日	C教諭 教材③	D教諭 教材④	A教諭 教材①

	1組	2組	3組
○月○日	A教諭 教材①	D教諭 教材④	C教諭 教材③
○月○日	D教諭 教材④	B教諭 教材②	C教諭 教材③
○月○日	A教諭 教材①	B教諭 教材②	D教諭 教材④

- 生徒は様々な教師の考えに触れることができる。
- 同じ教材の授業を複数回行うことで、指導力の向上につながる。
- △同じ教材を扱う時期にズレが生じ、行事と関連させた指導が難しい。

- 担当同士で授業内容を相談することができる。
- 継続した見取りを行い、評価につなげることができる。
- △授業者は毎時間新たに教材研究をする必要がある。

学年ごとに選択できるようにする。

校内研修で、各学年のローテーションの実施状況を共有する。



学年ごとに生徒の学習状況や成長の様子を交流する。

通知表での適切な評価につなげられるようにする。

【手立て2】 教員のニーズに応じた提案

【提案①】 道徳教育推進教師による授業公開

指導案と合わせて、授業説明プリントを配布



ニーズに応じた授業提案
テーマ発問を取り入れ、話し合い活動を中心に据える。

【提案②】 道徳だよりの発行



校内における道徳科の授業や、小学校教科別研究発表校の実践から、ニーズに関わる手立てについて紹介する。

授業者の工夫やアイデアも紹介

【提案③】 道徳科に関する校内研修の実施

ニーズが多い「発問」について研修



自我関与、多面的・多角的に考えるための発問について取り上げた。

【成果】

- 指導体制の整備をしたことで、道徳科に関する情報の伝達や共有を機能的に行うことができた。また、学年ごとに実態に応じたローテーションの方法を選択できるようにしたことで、ローテーション道徳のよさを生かした指導を行うことができた。
- 実践提案を行ったことで、教師が自らの道徳科の指導方法について教員同士で関わり合うことのきっかけを作ることができた。

【課題】

- 行事と関連した道徳科の授業をより計画的に実施することができるように年間指導計画を整備し、ローテーションに組み込んでいきたい。
- 道徳科の授業について教員同士が話し合ったりお互いの授業を見合ったりする機会を多く設定していきたい。